

ポスト COVID-19 時代を見据えた「クリティカルケア看護教育」

田口 豊恵

クリティカルケア看護とは、救命治療を受けている生命の危機状態にある患者とその家族を含めた看護をいう（道又，2019）。昨今、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、救急医療体制はかつてない危機に直面した。

我国より先に感染拡大していた中国や米国の看護師協会では2020年3月よりeラーニングによる教育が取り入れられていた。米国クリティカルケア看護師協会においては、COVID-19に対応した呼吸管理に関連するトレーニングコースやボランティアの募集が行われていた。我国のクリティカルケア看護領域の学会からは、2020年3月末～4月に種々のガイドラインが発表された。その内容を概観すると、日本クリティカルケア学会からは「ICU経験のない看護師のための重症患者管理クイックガイド 日本語版 Ver.1」が出され、入職間もない新人や応援看護師の教育に配慮されていた。また、日本救急看護学会では会員のアンケートより臨床看護師らの生の声が掲載された。看護師らは、「COVID-19の対応に追われ、他患にいつものCPRが出来なかったのではないか」、「自分の命を張って看護師を続けなくてもよいという家族の言葉」、「PCR検査が出来なかった患者が再診し、ECMOを回すことになり、生命危機に晒してしまった」。これらは、クリティカルケアの場で未知のウイルスに対峙する看護師らの疲弊感、職業倫理観との葛藤にほかならない。しかし、同時にスタッフの教育やストレス緩和を図る様子も数多く述べられており、看護師らのマインドが伝わり、胸が熱くなった。

重症患者に装着された心電図モニターから聞こえる音は、『患者の声にならない訴え』である。心電図上の頻脈発作は排痰できない苦しさ、疼痛や不適切なポジショニングによるものかもしれない。予測性や即時性を求められるクリティカルケア看護の実践では、エビデンスに基づく知識と安全・安楽な技術に加え、患者・家族へのケアリング力が看護の質を担保する。Jean Watsonは（2012）看護実践の中にケアリングの構成要素であるカリタス・プロセスを取り入れていくことでトランスパーソナルケアの瞬間が生まれると述べている。このトランスパーソナルケアの瞬間を創造するためには意図的に注意深く、どのように相手の現象野に入り、存在するかということについて十分に考慮し、関心を持ち続けることが重要である。ポストCOVID-19時代には、人との距離の確保や短時間でケアを行うためにAIを含めた看護の展開がいっそう求められる。そこではテクノロジーの進化と並行したケアリングとしての技術力を身につけるためのきめ細やかな教育の構築が必要になる。アカデミアの一員として未来を担うクリティカルケア看護教育に専心努力していきたい。

最後にこの病でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、治療を受けられている方々の快復をお祈り申し上げます。そして、COVID-19と全力で戦って頂いている保健医療従事者の皆様に心より敬意と謝意を表します。

参考文献

- Mary Rockwood Lane, Michael Samuels , Jean Watson (2012),The Caritas Path to Peace: A Guidebook for Creating World Peace with Caring, Love, and Compassion, Colorado : Watson Caring Science Institute.
日本救急看護学会, <<http://jaen.umin.ac.jp/>>,
2020年4月21日閲覧.
- 日本クリティカルケア看護学会, <<https://www.jaccn.jp/>>, 2020年4月21日閲覧.
- 米国クリティカルケア看護師協会, <<https://www.aacn.org/?tab=Advanced%20Practice>>,
2020年4月21日閲覧.
- 道又元裕, 中田諭, 尾野敏明 (2019), クリティカルケア看護学, 東京: 医学書院.